

# 平成 24 年度 事業報告書

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

## 1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を以下のとおり実施した。

### 1.1 研究者交流助成

#### (1)研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

##### ①募集・選考

助成募集要項および申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 150 ヶ所に募集案内を郵送し、公募した。4 月 1 日～6 月 6 日まで募集したところ、次のとおり申請が 80 件あった。

- a. 地域別： アメリカ 18 件      スペイン 6 件      中国・オーストリア 各 5 件  
              ハワイ・ドイツ・フランス 各 4 件      イギリス・イタリア・カナダ 各 3 件  
              韓国・台湾・ベルギー・スイス・ポルトガル・ギリシャ 各 2 件  
              香港・マカオ・マレーシア・ベトナム・カンボジア・オーストラリア・ロシア・スロベニア・  
              ルーマニア・オランダ・キプロス・トルコ・カタール 各 1 件

- b. 年齢別： 20 代 46 件      30 代 28 件      40 代 4 件      50 代 2 件

6 月 25 日開催の選考委員会において慎重に審議し、採択 5 件、内定(論文審査中)1 件、補欠 1 件を選考した。

##### ②決定・交付

選考委員会の選考結果を受けた後、内定者は提出論文不受理となったため、理事長が平成 24 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を下記表のとおり決定し、助成金を交付した。

合計 5 件      総額 862,575 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
Solvi Fylgia Arnold 名古屋大学情報科学研究科 博士 2 年	13th International Conference on the Synthesis and Simulation of Living Systems (アメリカ)	17 万円
鈴木 優 名古屋大学情報基盤センター 特任助教	8th International Symposium on Wikis and Open Collaboration - WikiSym 2012(オーストリア)	20 万円
岩澤 有祐 上智大学理工学研究科 博士前期 1 年	12th Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence - PRICAI(マレーシア)	92,575 円
栗納 裕貴 京都大学工学部情報学科 5 年	23rd International Conference on Database and Expert Systems Application - DEXA 2012(オーストリア)	20 万円
長谷川 馨亮 京都大学情報学研究科 修士 1 年	23rd International Conference on Database and Expert Systems Application - DEXA 2012(オーストリア)	20 万円



①節電と経済活性化を両立させるスマートコミュニティにおけるサービスモデルの調査

(助成金交付額 1,099,945 円)

グループメンバー: (主査) 小木哲朗(慶應義塾大学)

神武直彦・Hasup Lee・立山義祐(慶應義塾大学)、内平直志・守安隆(東芝)、錠尚史(とめ研究所)、矢野浩仁・町田芳広(日立製作所)

②つなぐ・つながる技術に関する調査研究 (助成金交付額 1,005,837 円)

グループメンバー: (主査) 松本一教(神奈川工科大学)

杉浦博・田中哲雄・一色正男(神奈川工科大学)、(慶應義塾大学)、大須賀昭彦・田原康之・中川博之(電気通信大学)、青木翼・池田信之(東芝)、古賀明彦・谷口洋司(日立製作所)、竹之内隆夫(NEC)

③要求獲得計画のための要求獲得プロセスの観測と評価に関する調査研究

(助成金交付額 1,000,000 円)

グループメンバー: (主査) 中谷多哉子(筑波大学)

津田道夫(大阪大学)、妻木俊彦(国立情報学研究所)、片峯恵一(九州工業大学)、白銀純子(東京女子大学)、中里竜・位野木万理(東芝)、黒丸知也(とめ研究所)、藤原由希子(NEC)

(4)成果の報告

平成 23 年度産学戦略的研究フォーラム全体報告会を 5 月 7 日、国立情報学研究所(東京都千代田区)において行った。また、別途ウェブページ上で成果報告を公開した。平成 24 年度報告会は平成 25 年 5 月 27 日に開催予定。

## 2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会を以下のとおり開催した。

(1)プログラミングコンテスト(ICPC)開催

ACM(国際計算機学会)が年 1 回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選として ICPC2012 東京大会を東京工業大学と共同で開催した。

①経緯

②実施概要

日時: 平成 24 年 11 月 17~19 日

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町 3-1)

主催: ACM-ICPC 東京大会実行委員会、東京工業大学、(公財)情報科学国際交流財団

大会実行委員長: 渡辺治(東京工業大学)

内容: ICPC は、大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成 25 年 7 月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、インターネットを利用して日本国内予選を実施し、本選は予選通過チーム

と外国チームが一堂に会し、国立オリンピック記念青少年総合センターで行った。出題、進行等についてはすべて英語が使用。

参加数：国内予選(7月6日 Web を利用して開催)・・・ 69校 321 チーム

東京大会本選・・・ 国内 22校 28 チーム、海外 5校 6 チーム 計 27校 34 チーム

結果：1位東京大学、2位国立台湾大学(台湾)、3位電気通信大学

(なお、世界大会参加権は、日本の大学は、東京大学、電気通信大学、東京工業大学が得た。)

## (2)ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

### ①ICPC アジア地区予選への派遣

11月23～25日に台湾で開催されたアジア地区予選(ICPC2012 高雄大会)へ、日本国内予選で1位となった東京大学チームを派遣した。成績は3位。

### ②ICPC 世界大会への派遣(学生競技者)

平成23年度の地区予選大会(ICPC2011 福岡大会)で選ばれた3チーム(東京大学、京都大学、電気通信大学)を5月14～18日、ワルシャワ(ポーランド)で開催されたICPC 世界大会へ派遣した。

### ③ICPC 世界大会への派遣(指導者)

前述の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、ICPC 委員・石畑清教授(明治大学)を派遣した。

## (3)ICPC に関わる予備練習会等の開催

過去に行われたICPC への参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

①国内予選の前にインターネットを利用した予備練習会を行った。

②9月14～17日にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センター、東京大学駒場キャンパス及び秋葉原拠点において東京大会に向けた強化合宿を行い、日本チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標とした。参加者は73名。

③東京大会の前、11月4日、東京(サイバーエージェント会議室)・大阪(大阪大学)の2会場とインターネットを利用して、模擬練習会を行った。

## (4)ICPC2013 開催

9月21日のICPC 委員会において会津大学を次年度の開催校に選定し、理事長がICPC2013 会津大会の開催を決定した。

以上